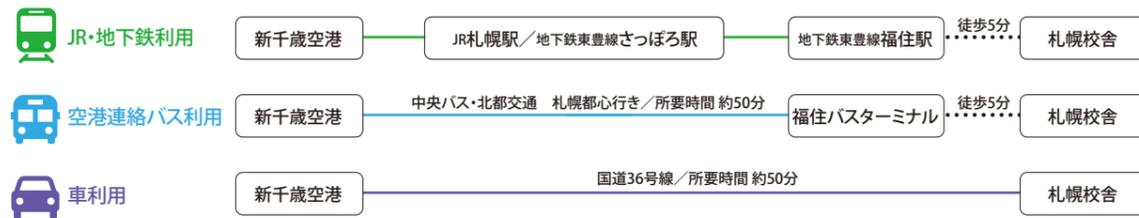


ACCESS

アクセス



札幌校舎までのアクセス



OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

オープンキャンパスの
申し込みはこちら



第1回 2024年 6/29 ^土	第2回 2024年 7/31 ^水	第3回 2024年 8/24 ^土
-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

宿泊・日帰り体験実習

随時受付

期間: 5/7 ^火 ~ 10/21 ^日

体験実習・見学の
申し込みはこちら



学校法人 八紘学園 北海道農業専門学校

〒062-0052 札幌市豊平区月寒東2条14丁目1-34
TEL 011-851-8236
E-mail hakkou@hakkougakuen.ac.jp
https://hakkougakuen.ac.jp/

北海道農業専門学校 日高農場

〒059-2122 沙流郡日高町緑町44-2
TEL・FAX 01456-2-5280

Instagramで
農場や学校生活を
紹介しています。



2025 学校案内

学校法人 八紘学園

北海道農業専門学校



君の夢に、大地が応える

Hokkaido Agriculture Technical College 2025



学びのMAP

都市で農業を学ぶ。企業や地域とかがわる環境が次世代の農業者を育てる。

海外や卒業生とのつながりが知識や視野を広げる

JICAを通して見学を訪れる国々と協力し合うことで、本校からの海外研修も充実。卒業生との情報交換や各種学校への出前授業など、多様なつながりや体験が用意されています。

「おいしい!」「楽しい!」地域の人の言葉を生かす

学生たちは生産・収穫した生産物を直売所で販売するほか、幼稚園を対象に農業収穫体験による食育を実施。地域の人や子どもたちとの会話から学び、翌年の栽培に生かします。

人の手もロボットも活用 これからの農業を学ぶ

農業には人にしかできない作業と、施設の遠隔監視の自動化などロボットに任せられる作業があります。本校では2024年度から農場内にWi-Fiを導入。どちらも学べる環境を実現しています。

農場をドローンが飛ぶ! データの活用を企業と実施

農地の撮影・画像解析や農薬散布などにドローンが有効です。データの収集や管理、生育状況のデータ分析、ドローンの飛行訓練を行う実習を、民間企業と行っています。

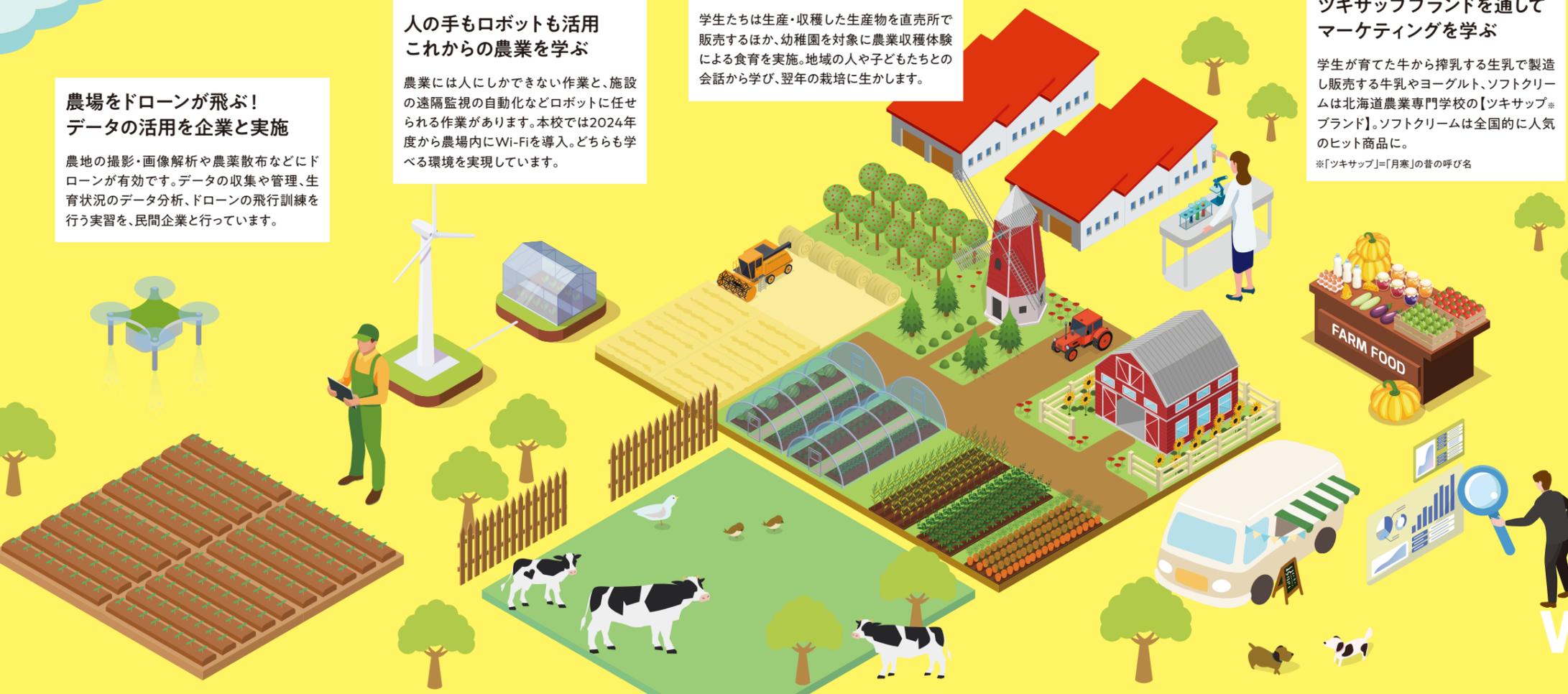
ツキサップブランドを通してマーケティングを学ぶ

学生が育てた牛から搾乳する生乳で製造販売する牛乳やヨーグルト、ソフトクリームは北海道農業専門学校の【ツキサップ®ブランド】。ソフトクリームは全国的に人気のヒット商品に。
※「ツキサップ」=「月寒」の昔の呼び名



春から秋までは大地がキャンパス!

農場や牧場での実践的な学習が多いことが本校の魅力。春から秋は札幌と日高の農場・牧場で技術を磨き、冬は講義を通して技術の裏付けとなる知識を習得します。



地域と、社会とつながり合う北海道農業専門学校の教育

農地や牧場で生産された生産物や加工された商品は、やがて消費者の手に渡ります。大都市札幌の市街地にある八紘学園北海道農業専門学校は、農業が環境を守りながら都市と共生していくことを実感し、学べる環境。都市で農業を行うことで、地域や企業、他大学教育機関、研究機関などと幅広く連携することが可能になります。生産だけでなく、商品開発やマーケティング、販売にも視野を広げた学びを提供することで、次世代農業者の育成を目指しています。



INDEX

P01-P02	北海道農業専門学校の MaNaBi 01	学びのMAP/北海道農業専門学校の教育 実習中心で実践的に学ぶ	P07-P08	学びの流れ
P03	北海道農業専門学校の MaNaBi 02	農業と都心が共生するキャンパス紹介 (直売所)〈日高農場〉 農業と地域がつながる! 牛の幸せにとことん向き合う	P09-P12	畜産グループ 乳牛科 日高畜産科 耕作機械科
P04	北海道農業専門学校の MaNaBi 03	一生の出会いを育む全寮制 先輩にインタビュー	P13-P16	園芸グループ 野菜科 果樹科 花き科
P05	北海道農業専門学校の MaNaBi 04	農業のプロフェッショナルを育成するための資格 (海外研修)〈進路サポート〉 高い技術に触れるチャンス 将来をしっかり見つめる	P17-P18	オープンキャンパス 校長挨拶
P06	北海道農業専門学校の MaNaBi 05	学び×実践で就職に強い		

農業と都心が共生する 広大な敷地

札幌市市街地に63ha、日高に129haという巨大な農場。敷地面積の総計は東京ドーム40個分にも相当します。農業を学ぶための充実した環境は、広大なフィールドだからこそ実現するのです。

WEBサイトはこちら



育てた生産物の販売を通して農業と地域のつながりを実感



直売所 “地域とのつながり”

敷地内にある八紘学園農産物直売所には、学生たちが実習で手がけた新鮮な青果や花・乳製品をはじめ、卒業生や地元生産者の方々によるこだわりの食材が勢ぞろい。学生たちは実習の一環として接客・販売を行っています。八紘学園農産物直売所が目指すのは、地域社会と農業の結びつきを深め、持続可能なまちづくりに貢献すること。学生たちも、お客様と触れ合う体験を通して、生産する喜びや、地域と農業のつながりの大切さを実感することができる場です。



本格的な和牛の飼育に取り組み、市場でも高い評価



日高農場 “12頭連続でA5等級獲得”

本校では、乳牛のほかに、肉牛の飼育にも力を入れています。日高農場では繁殖和牛40頭、一貫肥育で12頭の肥育牛を飼育しています。また、生まれた子牛は素牛販売北海道市場に出荷しています。2023年に開催された北海道総合畜産共進会では特別賞の奨励賞を受賞したほか、2021年から出荷している肥育牛も12頭連続でA5等級を獲得しています。日高畜産科では実習期間中を日高寮で過ごすため、都会の喧騒(けんそう)から離れた環境でとことん牛と向き合うことができます。

一生の出会いを 育む全寮制

大都市・札幌の市街地に巨大農場を持つ北海道農業専門学校。学生寮(八紘寮)はその敷地内。全寮制だから実習や授業だけでなく、日常も一緒。仲間たちは農業でつながる一生の財産です。

寮の詳細はこちら



笹原 唯 農業科1年
神奈川県立鶴見高校出身

入寮前は、寮生活が自分に合わなかったらどうしよう、と不安でした。でも、初日に出迎えてくれた先輩たちが「困ったことがあったらいつでも言ってね」と優しく声をかけてくださって、不安は一瞬で消えてしまいました。女子寮内での1年生歓迎会で先輩方から学生生活についてのアドバイスをもらったことも心強かったです。同級生も先輩も一緒なので、ちょっとしたきっかけで仲良くなれて、交流が広がるのが全寮制の良いところ。今では友だちと料理をしたり、談話室でお話したり。毎日楽しく過ごしています。



新井 天太 農業科1年
兵庫県立福岡高校出身

自室では勉強や趣味に集中し、食堂では先輩や同級生と交流。広いホールには卓球台があり、軽い運動をしたり、楽器練習をしたりもできます。寮は、いつでも友だちと話せて、楽しい時間を過ごせる場所です。イベントもいろいろあります。学生寮のみならず主催する寮祭では、バーベキューやビンゴ大会で盛り上がりました。Wi-Fi完備なので自室でオンラインゲームや動画を楽しむ寮生も多いです。地下鉄駅やショッピングモールも近く、休日に遊びやアルバイトに出かけるのも便利。寮生活は平日も休日も充実しています。

Campus Life

キャンパスライフ(平日編)

4:00	起床
5:00	点呼・早朝実習開始
6:00	朝食
7:00	
8:00	朝礼・実習講義開始
9:00	午前実習開始
10:00	
11:00	昼食・昼休み
12:00	
13:00	午後実習開始
14:00	
15:00	
16:00	
17:00	夕食
18:00	フリータイム
19:00	
20:00	
21:00	
22:00	就寝



早起きには慣れました。目が覚めたら身支度や掃除をして実習へ



その日の実習内容に合わせて実習着を選びます



敷地が広いので寮から実習の場所までは、自転車で行くのが便利です

Campus Life

キャンパスライフ(休日編)

9:00	起床
10:00	フリータイム
11:00	
12:00	昼食
13:00	フリータイム
14:00	
15:00	
16:00	
17:00	
18:00	
19:00	夕食
20:00	
21:00	
22:00	就寝



趣味は音楽。実家から持ってきたギターを、自室で練習中



広い敷地にはグラウンドもあって、思い切り体を動かせます



筋トレは毎日の習慣。休日や自由時間に鍛えています

寮のイベントをご紹介します



年に1度開催される札幌近郊の専門学校が集まるスポーツ大会。参加者を募り、チームを結成して参加しています。



7月の寮祭は学生が主体となってイベントを企画・実行します。学生寮前でのレクリエーションなどで盛り上がります。



10月の収穫祭。収穫への感謝をしながら、各学科の生産物を持ち寄ってのBBQやレクリエーションを楽しみます。



Cat Room(相談室)には月2回、学校関係者以外のカウンセラーが来校。心や生活などさまざまなことを気軽に話せます。

農業のプロフェッショナルを育成

農業には生産や生育についての知識や技術のほかに、農業機械や農薬、肥料、食などさまざまな分野についての知識や技能が必要。専門的な知識を学び、資格取得を目指すことは、農業のプロフェッショナルへの第一歩になります。

WEBサイトはこちら



学内(授業)で 取得可能な資格	取得推奨学科					
	乳牛科	日高畜産科	耕作機械科	野菜科	果樹科	花き科
家畜人工授精師	●	●	●			
車両系建設機械技能講習	●	●	●	●	●	●
フォークリフト運転技能講習			●	●	●	●
玉掛け技能講習	●	●	●	●	●	●
小型移動式クレーン運転技能講習	●	●	●	●	●	●
ガス・アーク溶接技能者	●	●	●	●	●	●
日本農業技術検定〈1級・2級・3級〉	●	●	●	●	●	●

※一部資格については学外での実施となる場合もあります。

学外(授業)で 取得可能な資格	取得推奨学科					
	乳牛科	日高畜産科	耕作機械科	野菜科	果樹科	花き科
毒物劇物取扱責任者	●	●	●	●	●	●
削蹄師	●	●				
食生活アドバイザー	●	●	●	●	●	●
食育インストラクター〈1級・2級・3級・4級・プライマリー〉	●	●	●	●	●	●
家畜商	●	●				
普通自動車免許・大型特殊免許	●	●	●	●	●	●

※本校の規定により申請書を提出すると、受講料の一部助成を受けられるようサポートしております。
※普通自動車免許、大型特殊免許については助成サポートの対象外です。

海外の一流技術に触れ、自身の知識を確認する

海外研修



世界最先端の技術を視察し、国際感覚を養うことを目的とする海外研修。学校の推薦(若干名)で『日本青年協会』から一部補助を受けて渡航する制度もあります。個人旅行では立ち入ることのできない各国の生産現場を体感し、国内にはない施設や動植物を視察し社会活動を体験。一流の生産技術に触れ、授業や実習で身につけた知識や技術を世界で確認する貴重な機会です。

少人数制だから一人ひとりの進路をしっかりと支援!

進路サポート〈インターン〉



本校には農業後継者のほか、農業に関わる仕事に就くことを目指す学生が全国から集まっています。学生が思い描く未来はさまざま。本校で開催する「農業のしごと相談会」や、企業や牧場で業務を経験する「インターンシップ」を通して、進路のミスマッチを最小限にとどめ、就職率を上げ、離職率を抑える支援や取り組みを行っています。少人数制だからこそ、一人ひとりの希望や適性、状況に寄り添いながらサポートを行えるのが本校の魅力です。

学び×実践で就職に強い

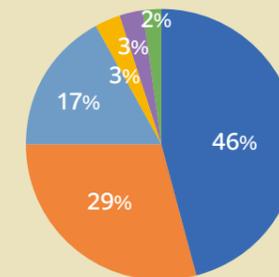
実習や講義だけではなくインターンシップや学校行事「農業のしごと相談会」によって進路のミスマッチを最小限にとどめ、少人数制だからこそ一人ひとりの進路を支援しています。卒業生は2年間のMaNaBiを経て活躍しています。

WEBサイトはこちら



就職率

■農業系法人 ■他の法人 ■農業後継者
■酪農ヘルパー ■進学 ■未定・他
※2024年3月末現在 ※過去3年間



活躍するOBとOG

カルビーポテト株式会社 馬鈴薯事業本部馬鈴薯研究所 品種開発課
近藤 圭馬 2020年卒業生

学生時代は幅広く学び、今は馬鈴薯の品種開発が担当です。

畜産について学んでいたのですが、今は、1週間のインターンシップ中に興味を持った馬鈴薯の品種開発を行っています。夏季は育苗圃場での圃場調査と収穫オペレーター、冬季は馬鈴薯の貯蔵管理が担当です。育種した品種を生産者の方に試験栽培していただいた時、「栽培しやすかった」「来年も栽培させてほしい」と言われると大きなやりがいを感じます。

株式会社アレフ 銀河庭園
前野 貴子 1997年卒業生

約10haの庭園を維持管理。自然に触れられるのも喜びです。

学んだことを生かしたくて、恵庭市にある「えこりん村銀河庭園」のガーデナーに。庭園の維持管理などを担当しています。学生時代の実習でさまざまな作業の基本を体験していたので、すぐに現場で働くことができました。自然に囲まれた環境で仕事ができること、早朝の幻想的な庭園の風景など美しい瞬間に出会えることに喜びを感じながら働いています。

株式会社秩父別振興公社 氣田 みゆき 2014年卒業生

加工品作りのサポートで地域に喜ばれるのが嬉しいです。

地域おこし協力隊で秩父別町に着任。任期終了後、現在の会社に就職しました。今は、パンやレトルト食品、干し野菜など、多彩な加工食品が作れる秩父別町農産物加工センター「くるり」で、利用者のサポートや試作、利用促進イベントの実施、特産品開発、製造管理を担当しています。「くるりが使いやすくなったよ」などの声をいただけるのが嬉しいです。

新規就農 伊藤 史也 2015年卒業生

自分の農場で作物を育てる小学生の頃からの夢を叶えました。

卒業後3年間は、美瑛町の農業法人で経験を積み、北広島市で新規就農。トマトやアスパラ、イチゴ苗などを栽培しています。新規就農は土地探しや地域とのつながりづくりなど準備が大変。力になってくれたのは北広島市で農業をしている北海道農業専門学校の先輩でした。農業の基礎も経営学も人のつながりも、学生時代が作ってくれたと実感しています。

卒業生の進路実績

※2024年3月末現在 ※過去3年間 ※実習専攻グループ別

- | | | |
|---|---|---|
| <p>畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ■農業系法人 有限会社デーリサポート(帯広市) 株式会社光農産業(浦幌町) 有限責任事業組合帯広畜産センター 株式会社関谷牧場(新得町) 有限会社Mの国牧場(宮崎県) 株式会社北富青果(新得町) 中川牧場(根室市) 伊達農業塾 風のがっこう(伊達市) 株式会社木谷牧場(千歳市) 吉田牧場(上士幌町) 株式会社トップファーム(佐呂間町) 株式会社奥秋牧場(鹿追町) 今村牧場(更別村) 株式会社エステリアデリーサービス(広尾町) 株式会社新田ファーム(鷹栖町) 石田牧場(鹿追町) 十勝CW牧場株式会社(帯広市) 有限会社大原牧場(鹿追町) | <ul style="list-style-type: none"> ■酪農ヘルパー 十勝酪農ヘルパー組合連絡協議会 阿寒酪農ヘルパー利用組合(阿寒町) ■その他の法人 日本ニューホランド株式会社(札幌市) 株式会社夢真(札幌市) 学校法人八紘学園北海道農業専門学校 ■農業後継者 帰省就農/熊本県、鹿追町、音更町、岩手県、幕別町、士幌町 ■進学 酪農学園大学 農食環境学群 循環農学類 ■園芸 ■農業系法人 株式会社グリーンオーシャン(東京都) 白馬農場株式会社(長野県白馬村) 北王農林株式会社(幕別町) 株式会社NAKAGIN 平岡農園(札幌市) 湯浅ファーム(倶知安町) | <ul style="list-style-type: none"> 深川市地域おこし協力隊(深川市) 梨湖フーズ株式会社(白老町) 社会福祉法人旭川旭親会(旭川市) 株式会社ハビネスワン(山梨県) 有限会社ファームキトラ(夕張郡) 藤本園芸(兵庫県) 当別町農業総合支援センター(当別町) ■その他の法人 株式会社ダイブ(斜里町) 有限会社菅原物流(山形県) カルビーポテト株式会社(帯広市) 株式会社GIS北海道(札幌市) 北海道社警高等学校 農務従事員(杜智町) 紋別郵便局(紋別市) 学校法人八紘学園北海道農業専門学校 ■農業後継者 帰省就農/余市町 ■進学 北海道エコ・動物自然専門学校 |
|---|---|---|

学びの流れ

1年次には農業全般を幅広く体験するため、各科での実習を行い自分自身の可能性を探します。2年次には2つのグループから、さらに希望する専攻科を選び集中的に学習。実践力を磨きます。

WEBサイトはこちら



班別実習

選択制実習(準専攻)

1年生の学び

■ 班別実習

夏期は農場畜舎管理実習、冬期は講義を中心としたカリキュラムによって、必要な知識と経験を身につけます。実習では少人数の班に分かれ各科を日替わりで実習し、仲間と協力しながら農業全般の学習を進めます。実習期間中においても農場内での実地で学ぶ演習等、知識の向上を行い、さらに冬期講義で理論的にも理解できるようにします。

■ 選択制実習(準専攻)

班別実習で全ての学科を体験したら、夏休み以降については希望する学科を2つのグループから選択・実習。興味を持ったり、将来に生かしたいと考えたりした各専門分野について、より深く学べるようにします。

■ 主な実習・研修

資格取得

ガス・アーク溶接や車両系建設機械運転技能講習、フォークリフトなど知識と演習が必要な資格を授業内で取得することができます。

演習I(現地ゼミナール)

各専門家から「病原菌採種と同定」「牛の体内構造を調査」「土壌断面調査」「気象装置の学習」などを直接学び理解を深めます。

視察研修

年2回、道内の農業関係機関などへ視察研修に行きます。企業が持つ最新技術や働く上で必要な知識やスキルを得る契機となります。

班を組み、日替わりで各科を実習



2年生の学び

畜産・園芸の大きく2つのグループから、さらに6専攻のうち1つを選択。4月から10月までの多くの時間をかけてスキルアップをしていきます。

2つのグループから、希望する専攻科を1つ選んで集中的に学習する

■ 専攻科

専攻科では、より専門的に実習や講義を深めます。就農先に必要な資格の相談や技術習得を各分野の職員が学生へ個別指導し、卒業後の進路を明確にしていきます。また専攻科の実習期間中は、卒業生・研究機関・企業(イベント参加)から、農場運営の実践経験を踏まえた現状を学べる機会が多く、進路の参考や経済の視点で農業と向き合うことができます。



■ 主な実習・研修

演習II(テーマ研究)

実習環境で自ら興味を持ったテーマで実験、観察、調査を実施。必要なデータの収集、発表を通し学んだことへの理解を深めていきます。

インターンシップ

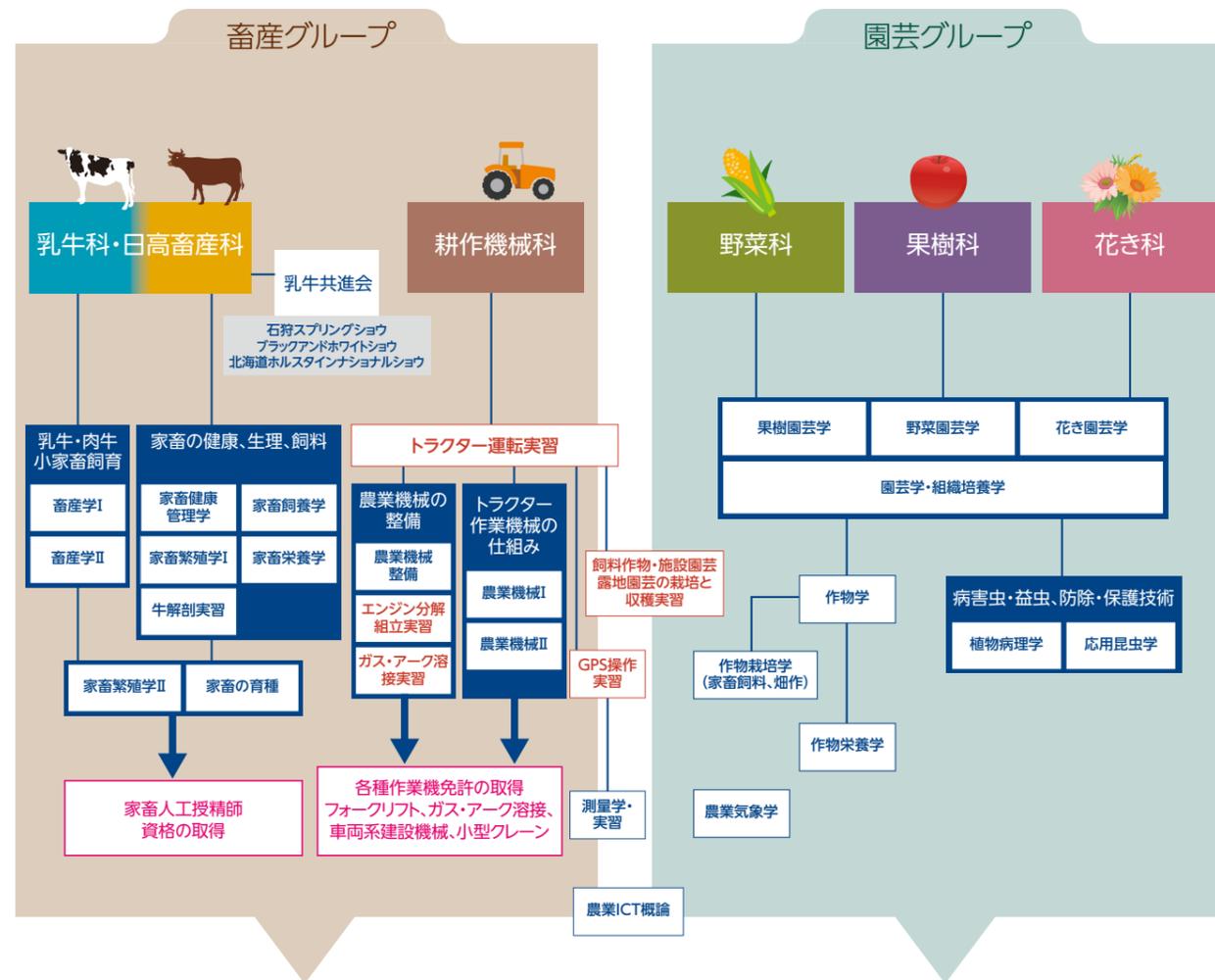
インターンシップは全学年が対象。特に専攻科では、就農先の仕事内容や最先端技術の経験をする機会として積極的な参加を促します。

研修旅行

学生自身が、学びたいことや行き先を決める研修旅行。高度な技術の導入や、優れた経営理念や経営手法を学べる農場等を視察します。

講義

実習を中心としたカリキュラムですが、その体験で得た断片的知識を体系的に理解するために講義はその実習に直結して裏付けとして行われます。



就職支援

キャリア形成実習

英会話I・II

卒業レポート研究

畜産グループ

牧場経営を主軸に3学科がそれぞれの役割分担を明確にして実習を実施。乳牛科では札幌の牧場で少数飼育での経営を学び、日高畜産科では日高農場で広大な敷地での経営を学ぶことができます。耕作機械科では、家畜の飼料の自給自足を通して畜産経営の安定を図る粗飼料の生産・研究を行います。本校では、伝統を守り続けた畜産の場を基本に、在学生が将来、どの経営方針を選んででも対応できる学びを、時代に合わせながら提供しています。

WEBサイトはこちら



乳牛科

乳牛科を専攻すると、牛舎作業の実習の大半を「乳牛の飼養管理技術の習得」に費やすことになります。長い時間を牛たちと過ごすことで、牛それぞれの個性を感じ、理解できるようになります。中にはその牛の体の一部を見ただけでどの個体かを判別できるほどになる学生も。乳牛を飼育する上で非常に重要な「牛を見る目」を養うことができるのです。乳牛は大きな変化を嫌う動物。一年365日のレベルの高いルーチンワークを責任を持って行えるように、指導と環境づくりを行っています。



乳牛科



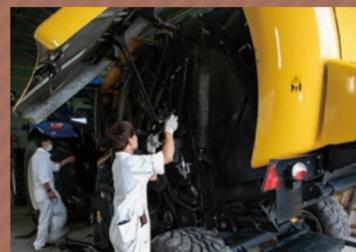
育種改良、高品質生乳生産についての高い技術を学習。牛を見る目を養うことを大切にしながら、ゲノム成績を元に性別別精液の利用や受精卵移植技術を使った牛の改良を学べます。

日高畜産科



広大な敷地にあるつなぎ牛舎、フリーバーン・フリーストールなど、飼ひ方の違う4棟の牛舎で実習。アニマルウェルフェアの考えに沿って、和牛の管理を行います。

耕作機械科



土地を耕し、種をまき、刈り取るまでに必要なトラクターや作業機など、全ての機械作業を実践できるのは本校ならではのICT農業を見据えた新技術の導入も進めています。

Schedule

ある1日のスケジュール

- 4:00 実習**
乳牛への給餌や独房掃除を終えたら、搾乳をしてバドックに牛を出し、寝わらを入れる
- 8:00 朝礼**
6時過ぎに早朝実習を終えたら朝食や身支度、毎朝の朝礼
- 9:00 実習**
給餌をして牛を牛舎に戻し、ブラッシングやしば洗い。草入れ、餌の補充、独房掃除など乳牛が暮らす環境を整える
- 11:30 休憩**
午前中の実習が終わったら、昼食をとって、のんびり
- 14:00 実習**
給餌や掃除、餌作り。育成牛・子牛を牛舎に入れ、補修、餌補充などを行い、搾乳。18時に終了

Column



飼育管理を学びながら上位を目指すホルスタイン共進会

牛の改良を目的とした品評会「ホルスタイン共進会」は、毎年各地区で開催されているほか、5年に一度の全国共進会があります。学生たちは、日々の実習とクラブ活動で飼育管理を学びながら牛を選び、準備をし、上位入賞を目指しています。

NEWS

コントラクターが増え、就農先も広がる

農業・畜産従事者の高齢化や担い手不足が深刻化するなか、道内各地に農産物の収穫や耕起などの農作業を請け負う組織・企業（コントラクター）が増えています。これによって、農場・牧場経営での労力の負担軽減や、機械・施設投資のコストダウンなどによる経営の安定化が図られることが期待されています。本校の卒業生たちも、コントラクターを就職先として選び、活躍しています。



和牛の全道共進会で奨励賞受賞

2023年9月2日開催の、和牛の全道共進会「第18回北海道総合畜産共進会」。本校の2年生がこれまでの調教など努力の成果を十分に発揮。日高畜産科の学生や職員、農協の方々の協力のもと、奨励賞を受賞しました。奨励賞は学園や地域の共進会への取り組み姿勢なども含めて評価される賞です。和牛共進会に取り組み始めて2年目ですが、多くの方々の熱意が伝わった結果といえます。



家畜人工授精師資格取得の講習会を開催

毎年7月中旬頃から札幌の校舎や牛舎では、国家資格である家畜人工授精師資格取得のための講習会が開催されます。「家畜人工授精師」は耳慣れない言葉かもしれませんが、家畜の妊娠をサポートし、獣医師と連携しながら栄養管理や繁殖管理も行うなど、家畜を安定供給する上でとても大切な職業です。本校では、免許取得を目指し、主に畜産業への就農を目指す学生たちが受講しています。



Interview

在学生インタビュー



菱沼 柊太 乳牛科2年 北海道帯広農業高校出身

毎日の実習を通して、一生の仲間ができたことが財産です。

実習を中心に、実践的に学べるカリキュラムだということに興味をもち、オープンキャンパスに参加。先輩たちが実習をしている姿に憧れて入学しました。餌やりや搾乳、哺乳など、酪農をする上で必要な技術を学べるだけでなく、共進会に取り組むための毛刈りや調教の技術なども先輩から後輩に引き継がれているところに、本校の伝統を感じます。

全国各地から集まった同級生や先輩、後輩は、実家が酪農をしている人、農業とは関係のない家で育った人などさまざまですが、志はみんな同じ。毎日、一緒に実習をするのは楽しいですし、一生の仲間ができたと思っています。将来は、帯広市にある牧場に就職をして、いずれは実家の酪農業を継ぎたいと考えています。酪農は人手不足などさまざまな課題を抱えています。学校でも就職先でも多くのことを学び、地元を引っ張っていけるような酪農家になりたいです。

日高畜産科

日高町にある日高畜産科の日高農場では、4棟の牛舎でさまざまな飼育形態を学ぶことができます。牛をつないで飼養する牛舎では育成・乾乳牛を飼育。フリーストール牛舎は育成牛の飼育を行うほか、分娩房として利用しています。フリーバーン牛舎は発酵床式で繁殖和牛を飼養しており、2019年に建てられた肥育牛舎では肥育牛の管理も行い和牛の一貫経営を学ぶことができます。そのほか、生体センサーを導入することで、常に牛の行動が観察できる管理方法を、実習に取り入れています。



Schedule

- ある1日のスケジュール
- 5:00 早朝実習**
和牛の飼養管理を学ぶ牛舎実習
 - 7:00 朝食**
寮での食事は寮生も先生と一緒に。午前中の実習までの間に、時間があれば仮眠をとることも
 - 9:00~11:30 実習**
給餌や牛舎の掃除、餌作りなどを実践的に学ぶ
 - 14:00~17:30 実習**
午後も実習。日高の広大な敷地に放牧されている牛を見るのは気持ちがいい

Column



高品質の和牛を
持続的に
出荷することが目標

2022年以来14頭の出荷を行い、『平均枝肉総重量536kg』『ロース芯面積平均69.5cm』『BMS NO.11.4』『全頭最高ランクA5取得』という実績を収めています。今後も生産肉能力や肉質向上、低コスト化を図り、高品質の和牛出荷の継続が目標です。

耕作機械科

耕作機械科ではトラクターや農作業機を扱う実習時間が他校と比較して圧倒的に多く、実践的な能力を高めることができます。札幌農場と日高農場の敷地内では免許がなくても運転できるため、安全面の指導を受けながら思う存分広大な敷地で操作ができます。また、操作だけでなく、機械整備についても学ぶことができます。機械整備実習がある学校は他にもありますが、教員の指導のもと学生本人が修理した作業機やトラクターを実際に農場実習で使用できるのは、本校の耕作機械科ならではの強みです。



Schedule

- ある1日のスケジュール
- 5:00 実習**
点呼の後、実習がスタート。6:30からみんなで朝食
 - 7:00 休憩**
次の実習までの時間があるときは休憩をするなど自由に過ごす
 - 8:00 実習**
トラクターの整備や、時期によって畑の整地や作物の収穫など、耕作機械を使った実習
 - 11:30 昼食**
食後は休憩。思い思いに過ごせるのがいい
 - 13:00 実習**
午後の実習は17:00まで。実習中心だから機械の整備や操作、機械を使った農作業も上手になる
 - 18:00 入浴・自由時間**
夕食後は入浴で1日の疲れをとり、その後は自由時間。翌日の早起きに備えて23:00には就寝

Column



実習を通して
農業機械や
ドローンの操作を
身につける

機械操作や農業の基本を実習を通して習得。例えば、GNSS+RTK(高精度測位技術)を利用したトラクター自動操舵(そうだ)や境界散布及び可変施肥が可能な肥料散布機を導入。その使用方法是圃場(ほじょう)に出て実習を通して学んでいます。農業散布用のドローンを用いた散布実習や各種試験も行っています。

Interview

在学生インタビュー



寺澤 あすな 日高畜産科2年 北星学園大学附属高校出身

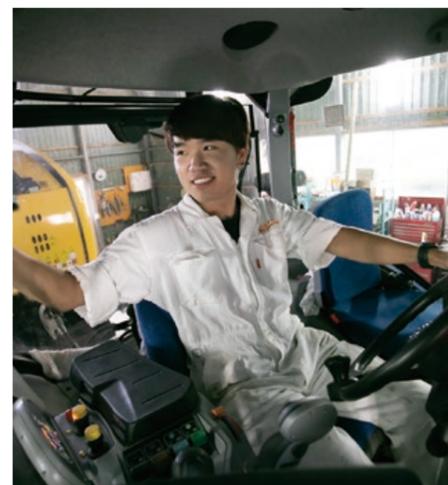
広々とした日高農場で、牛たちと真剣に向き合っています。

牛について一から学びたくて、北海道農業専門学校の「実習が主体の授業」という点に魅力を感じて入学しました。全寮制で、食事の時は朝・昼・夕と学生だけでなく先生も一緒。先生はフレンドリーで相談もしやすく、牛のことはもちろん、農業機械についても幅広く教えてもらえます。今は、ホルスタインや和牛の飼養管理を実習で学んでいます。日高農場は広々としていて牛も人も気持ちよく過ごせる場所ですが、実習の際、人間の判断で牛と別れなければならないという場面何度か立ち会い、命を扱うことは簡単なことではないと実感しました。真剣に牛と向き合わなくてはと心に決めるきっかけでした。

これからは経営や牧草、耕作機械についても知識や技術を身につけて、卒業後は牧場に就職したいと考えています。つなぎ飼いや放牧への転換や飼育頭数を増やすなど、新しいことにチャレンジしていきたいです。

Interview

在学生インタビュー



伊藤 克起 耕作機械科2年 北海道帯広農業高校出身

自分で機械を修理できる力を身につけたい!

耕作機械科ではトラクターの乗り方や機械の扱い方、工具の正しい使い方などを学んでいます。機械が壊れた時の修理の方法なども教わります。将来、農業や酪農業を経営する際に役立つので、自分でモノを直せる力を身につけたいです。

先生方は質問をすると、何でも気さくに教えてください。教え方もとても上手。例えば、牛の餌を作るためのバンカーサイロ(飼料貯蔵庫)に材料を詰めた後、タイヤショベルでしっかりと踏み込む鎮圧を初めて行ったのですが、思いのほか難しく、機械を壁にぶつけてしまったりしました。失敗したと落ち込みそうだったのですが、先生が良いところを見つけてほめてくださり、もっと上手になりたいという向上心が生まれました。

将来は、実家の酪農業を継ぎ、6次産業化で乳製品を作り、酪農の楽しさや牛乳のおいしさ、大切さを知ってもらえるような活動をしたいです。

園芸グループ

就農を希望する人にとって、野外の畑で栽培する「露地栽培」から始めるのか、ハウスや温室を使う「施設栽培」にするのかは重要な選択となります。本校の園芸グループでは、露地向きの作物、施設向きの作物に分けて栽培の実習を行うことで、学生一人ひとりの将来の選択に役立つ学びを可能にしています。また、作物を生産し、販売(外部販売・狩りもの販売)する一連の工程を体験しながら、生産物の流通を学ぶことができます。

WEBサイトはこちら



野菜科

種まきから収穫まで、一連の工程を学生が主体となって学びます。栽培技術だけでなく、作業に必要な機械操作も学ぶことで実践レベルの人材を養成します。また、実習や直売所での販売にとどまらず、市内農業関係のイベント販売への参加、飲食店や企業への出荷など、食を支える人たちの一員となっています。野菜を作る責任や自然と向き合う難しさを肌で感じ、仲間たちと切磋琢磨し、作る魅力を発見できるよう指導しています。



野菜科



ビニールハウス・露地物も合わせて30品目以上の野菜の栽培技術を習得し、販売まで一連の工程を学びます。近隣の園児の体験学習受け入れなど食育についても学びます。

果樹科



本校は北海道で果樹を学べる唯一の専門学校。りんご、梨、プルーン、サクランボ、ブルーベリーなど約2,100本の植栽をし、苗木の栽培管理など生産技術を実習で学びます。

花き科



草花・切り花・鉢植えなど基本的な花の管理を習得。種まき、除草、灌水(かんすい)、液肥など一連の作業を実習で学びます。春の花苗直売や秋の鉢花イベントなどで接客も体験します。

Schedule

ある1日のスケジュール

-  5:00 起床・早朝実習
その時期の旬の野菜を収穫後、朝食
-  8:00 打ち合わせ・実習
園芸グループの実習工程確認後、野菜科の実習で栽培や販売準備
-  11:30 昼食
実習の合間にしっかり栄養補給
-  13:00 実習開始
実習内容を打ち合わせてから実習
-  17:00 夕食
実習が終わったら、学生寮で仲間たちと楽しく夕食

Column



野菜苗の販売は地域の方たちの楽しみに

5月中旬ごろに開催する野菜苗販売。トマト、ナス、ピーマンといった野菜苗の販売を学生が主体となって行っています。学校周辺に住む方はもちろん、遠方から来るお客さまも多く、毎年販売初日には行列ができます。

NEWS

実習で食育や農福連携を体験

園芸グループの実習では、近隣の幼稚園や保育園の子どもたち向けに、りんご狩りなどの農業収穫体験による食育を実施。また、障がい者支援施設の方たちと一緒に作業を行うことで、目標を達成する喜びを体験する活動にも協力。学生たちも、障がいのある人の社会参加を実現する農福連携の意義や広がり、今後の必要性などを、実習を通して体験し、考えるきっかけにすることができます。



実習で収穫。冬期講義期間に加工

夏期の実習で収穫した生産物は校内の直売所で販売。冬期の講義期間には生産物を加工します。収穫し、加工し、実際に食べてみることで生産物の付加価値を見出すことにつながります。また、加工実習では食品の衛生管理、食の安全を理解することができます。種まきから収穫、加工などの体験を通して、野菜を作る魅力と楽しさ、責任を実践的に学ぶことが園芸グループの魅力です。



農業を通じた国際交流から学ぶ

本校には、国際交流機関を通じて定期的に海外からの視察団が訪れます。学生たちは、校内の農場の案内を行うほか、交流会の開催を通して海外でのより高い農業技術や生活などを学び、広い視野を養っています。また、海外での指導経験があり海外研修に詳しい教職員や企業と連携し、卒業後の海外での農業活動や海外研修などをサポート。次世代の農業を担う人材の育成に貢献しています。



Interview

在学生インタビュー



中瀬 尋斗 野菜科2年 近畿大学附属新宮高校出身

夢はイチゴ農家。大切に育てればおいしさを答えてくれます。

祖父も父も農業関係の仕事をしているため、子どものころから「自分も農業をやりたい」「野菜を作りたい」と思っていました。実習は作物に直接触れて学ぶことで、経験、技術など多くのことを得られる時間。トマト、キュウリ、イチゴ、ナス、ゴーヤ、落花生などさまざまな野菜を育てる中で最も印象的だったのがイチゴの栽培です。病気に弱いイチゴは収穫するまでの農業散布や古葉欠(ふるはがき)、pH測定、液肥の準備などが本当に大変で、実習をする時間も長いのですが、収穫して食べたイチゴが美味しかったときにすべてが報われました。どんなに大変でも、イチゴ栽培は楽しく、苦になりません。「植物は与えた分、素直に返してくれる」という先生からの言葉の通りだなと、強く実感できたのも実習中心に学べたおかげです。将来はイチゴ農家になりたいという夢が見つかりました。夢を実現させるため、卒業後はイチゴ農家に就職し、イチゴ管理の知識をより深めていきたいです。

果樹科

りんごを主に、ブルーベリー、サクランボ、ブルーベリーなど約1,600本を植栽。道内で唯一、果樹の生産技術を実習で習得。苗木の新植から開花・収穫までの栽培管理を通じて、品種の特性や基本技術を学び、狩りもの体験や直売所での販売を通じて消費者と接点を持ち今後の栽培の改善に生かすなど、幅広い体験ができます。生産者だからこそ味わうことのできる果樹の魅力にふれ、寒い北国ならではの工夫や、人々を笑顔にする果樹栽培を指導しています。



Schedule

ある1日のスケジュール

-  **6:00 起床**
身支度をして朝食。夏は5:00に起床
-  **8:00 実習**
朝礼の後、午前中の実習へ。季節によって果樹の定植、摘花、収穫などを行う
-  **11:30 昼食**
昼食をとった後は自由時間。午後の実習の準備も行う
-  **13:00 実習**
午後からも敷地内の果樹園でさまざまな内容の実習
-  **18:00 自由時間**
夕食と入浴の後は就寝までの間、自由に過ごす。散歩をすることも

Column



学校の敷地で果物狩り
リピーターの多い
人気イベント

本校敷地内の果樹園では、サクランボ、ブルーベリー、ブルーベリーの果物狩りを行っています。主に親子連れの皆さんに好評。おいしいといった声やリピーターの多さが、果樹科の学生の元気の源です。

Interview

在学生インタビュー



中島 翠 果樹科2年 北海道紋別高校出身

育てた果物が直売所で売れていくのを見ると大きな達成感です。

1年次で野菜科など全学科をまわり、実習で興味をもった果樹科を専攻しました。苗木の新植から開花、着果管理、収穫、販売までの一連の栽培管理を通して、品種の特性や基本技術を幅広く学んでいます。嬉しいのは、自分たちが育てて収穫した果物を学校の敷地内にある直売所に出す販売実習。お客さんが購入して下さるのを自分の目で見ると、努力が報われたようで達成感を感じます。また頑張ろう!と思えます。

全寮制なので学生同士の距離が近く、同級生とは将来の進路について語り合ったりしています。後輩からは実習のことなどで質問をされるので、わかりやすく教えるように努めています。私が教わることもあって、そんな後輩との交流にいつも感謝しています。

卒業後は実家の酪農業を継ぐ予定。果樹科専攻ですが、講義で経営学など将来に役立つことも学べるので、さまざまな知識をつけていきたいと考えています。

花き科

さまざまな種類の花きについて、基礎知識や栽培技術を学びます。学生の希望があれば、生産計画と一緒に立て、種を取り寄せて栽培を行うこともあります。道内外の園芸関連団体等と協力して行うイベントや店頭販売も貴重な体験。春の花苗直売や秋の鉢花イベントなどで接客も経験し、第一線で活躍する幅広い分野の専門家と交流を図ることもできます。学修を積み重ね、何事にも前向きに取り組む姿勢を持ち続けられるよう指導しています。



Schedule

ある1日のスケジュール

-  **6:20 起床**
寮の部屋を掃除してから身支度し、朝食へ
-  **8:00 実習**
作業の打ち合わせをして、温室内の水やりなどを行う
-  **11:30 昼食**
午前中の実習が終わったら、昼食や休憩でのんびり
-  **13:00 実習**
17:00までは午後の実習
-  **18:00 アルバイトへ**
入浴後、アルバイトへ

Column



毎年好評の
シクラメン販売

10月下旬ごろ、冬の定番花・シクラメンの販売実習を市内大型スーパー3店舗で行っています。学生たちは、花の特徴や育て方を覚えて、お客さまに伝えることで、コミュニケーション能力も磨かれています。

Interview

在学生インタビュー



北島 澄玲 花き科2年 北海道当別高校出身

育て方の小さな違いで花の成長が変わる。それが園芸の面白さ。

高校時代は園芸デザイン科で農業を学びました。園芸の面白さを感じ、もっと知りたいと思い入学しました。実習が中心のカリキュラムなので、普段は花への水やりや肥料まきなどの管理をしたり、冬に向けての冬囲いをしたりします。実際に植物を育ててみて知ったのは、作業の違いが花の生育に大きく影響すること。植え替えをする際の土の入れ方次第で植物の根の張り方が変わるなど、ほんの些細なさじ加減、力加減の重要性を実感しています。それだけに、学ぶべきこと、学びたいことはとても多いのですが、わからないことは私たちが理解できるまで教えてくれる先生たちなので安心です。話が面白く、親しみやすいので毎日の実習が楽しみです。

卒業後は花の生産にたずさわられたらと考えています。もっと勉強して花の知識を増やし、新人でも周りから頼られる働きができるようになりたいです。

体験をとおして、キミの未来をみつけよう!

OPEN CAMPUS



札幌市内に有する北海道農業専門学校の広大な畑。
そこで収穫された農産物で家畜を飼育したり、農産物を直売所で販売したり。
その楽しさや、やりがいを直接自分の目で見て、肌で感じていただきたいと思っています。
そこで、オープンキャンパスを開催します!
多くの生徒さんや保護者の方々の参加をお待ちしています。

体験実習は、
参加コースから
1つ選んで行います

2024年

第1回 6/29 土

第2回 7/31 水

第3回 8/24 土

- 乳牛科
最新技術や酪農用IT機器等の説明、飼育管理体験
 - 耕作機械科
スマート農業(ドローン操作・自動操舵搭載トラクター)操作体験
 - 野菜科
野菜栽培管理や収穫体験、実地での生産技術等の説明
 - 果樹科
果樹栽培管理やサクランボ・小果樹等の収穫体験、加工品等の試食
 - 花き科
花苗等最新品種の説明、花き栽培管理体験
- ※実習内容は天候により変更する場合があります。

5月~10月
宿泊・日帰り体験学習
受付中

日帰りはもちろん、寮に宿泊しながらの実習体験が出来ます。
個別の見学や実習体験にも対応しておりますので、
お気軽にお問い合わせ下さい。
見学や体験は、本校の実習時間に合わせたものとなります。
土日はお休みとなる場合がありますので、事前にご相談をお願いします。



※体験日数は最大7日間
※受け入れ人数は1名から5名まで
※往復の交通費は自己負担となります。
※寮の宿泊料、食事は無料です。

校長挨拶 Message

自らの道は、自ら耕し切り拓く。
変化に対応し、生き抜く力のある
人材を育てたい。

変わらぬ建学の精神「自耕自拓」

本校は1930年に開学した長い歴史を持つ農業の専門学校です。
創立者である栗林元二郎は開拓者であり、その建学の精神は「自耕自拓」。自らの道は自ら耕し切り拓くというものです。開学以来、90年以上にわたり教育の方針が変わることなく、農場実習が主体の全寮制の専門学校という形態を貫いてきました。これは、日本の農業を支える上での一つの大きな存在と言えます。私は30年ほど前に北海道農業専門学校とのご縁をいただいてから、いつの時代も変わらぬその建学の精神に深く共感し、尊敬してきました。変化が激しく、先行き不透明な今の時代にこそ、「自耕自拓」の精神は特に重要です。「自耕自拓」の精神を持った実践力のある人材の育成を目指し、教職員が同じ気持ちで取り組んでいます。

変化する農業の環境に対応できる「考える力」を養う

今はスマート農業など、省力化・効率化を目指す動きがあり、農業経営は法人化が進み拡大路線に進んでいます。農業のあり方やシステムは、時代によって変わっていくのは当然のことです。一方で、家族経営など昔ながらのやり方がよいという考え方もあります。何が正しいかではなく、それぞれの農家の考え次第。大切なのは、どういう方向で自分は進むべきなのか、一人一人の考える力を養うことです。また、本校は立地に恵まれており、酪農学園大学や北海道大学、農業試験研究機関や農業関連企業など関係している機関が周辺に多く、外部講師も充実しています。最新の情報に触れることは、学生が現場に出た時、自分で判断できるようになるための材料になるでしょう。

国家の基盤は農業。先進国を支える重要な産業で、誇り高い職業

先進国は特に農業が盛んでなければなりません。国の基盤は農業なのです。昨今の厳しい社会情勢に負けずと踏みとどまり、維持していただくだけでなく発展していくことが大切です。農業に興味があり、本校の学校案内を手にとった方に伝えたいのは、国民の食糧を支える重要な産業に携わることの誇りを持って挑戦してもらいたいということです。ここでの2年間は一つの挑戦です。失敗してもいい。思ったら行動してみてください。そのフィールドとして最高の環境を整えて教職員一同、お待ちしております。

八紘学園
北海道農業専門学校
校長 野 英二

酪農学園大学で長きにわたり教鞭を執り、
2005年に教授、2017年に名誉教授、副学長に
就任。1986年より、北海道農業専門学校の非常
勤講師を務め八紘学園評議員、理事を経て
2022年に校長就任。

大学編入制度

さらに学び、高度な知識・知見を得ることで、将来の選択の幅を広げる。

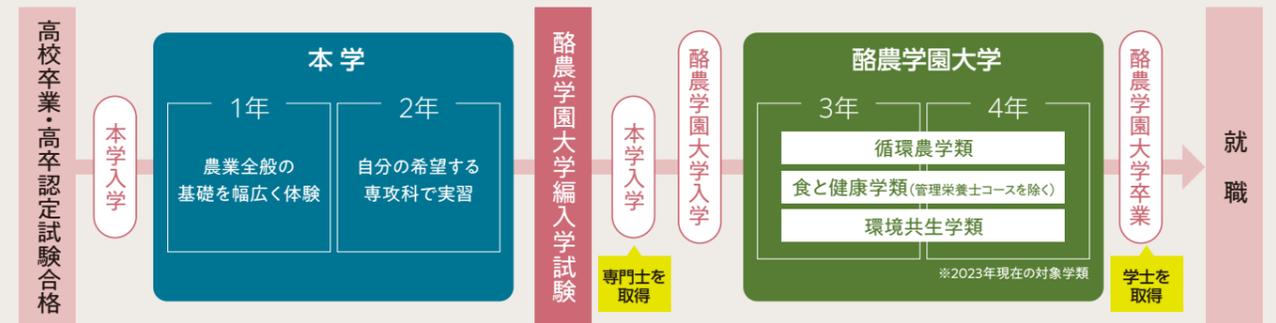


本学卒業は【専門士】、
大学卒業で【学士】のダブル取得

北海道農業専門学校の2年間で実践的に農業を学び、寮での共同生活でコミュニケーション力を身につけたら、大学への編入で進路をさらに広げるといった選択肢もあります。
大学編入制度は、本学卒業で「専門士」の称号を取得すると、大学3年次へ編入することが可能となる制度です(※本校で習得した単位の認定方法は大学によって異なります)。

本学での2年間を通じ、農業はもとより社会人として活躍する現場での実践力を磨き、大学編入後は、さらに深めたい分野の高度な学問知識と幅広い教養を習得することで、皆さんの活躍のフィールドは、より一層広がることでしょう。
農業をより深く学ぶもよし、農業を通じた食やマーケティング、地域づくりなど展開できる分野はあなた次第。
大学編入制度で、専門士の称号と、学士の学位のダブル取得が可能です。
編入学によって、就職の幅が広がったり、4年制大学で4年間学ぶよりも学費等の費用が節約できたりといったメリットもあります。

下記は、本学卒業後、酪農学園大学に編入する場合の流れです。



酪農学園大学と包括連携協定を締結しています

本学と酪農学園大学は教育活動を通して相互の発展に寄与するとともに、北海道農業の発展並びに地域社会の活性化を目的として、協定を締結しています。
学生間の交流や相互の教育活動など積極的に連携し農業に貢献できる人材育成を推進しています。また、本学卒業後、酪農学園大学の3年次編入などの選択肢もあります。

